

渡辺千尋 略年譜

本年譜は「渡辺千尋年譜」(『渡辺千尋銅版画 カタログレゾネ』[渡辺千尋遺作管理会、2010年]所収)および「年譜」(福満葉子編、『渡辺千尋の仕事』[執筆・編 長崎県美術館、2014年]所収)、黒ダイライ児『肉体のアナキズム』(grambooks、2010年)を参照の上、適宜抜粋・加筆を行った。

1944年	東京都に生まれる。	1978年	面相筆による作品を見た知人の勧めで銅版画に出会う。エングレーヴィングを始める。プレス機を使用するため、東京版画研究所に通う。
1949年	長野県上田市へ転居。	1979年	「第47回日本版画協会展」へ初出品。奨励賞受賞。「'79新人推薦展 第1週:磯見輝夫 浦江妙子 渡辺千尋」(養清堂画廊、東京)。以降、国内外で作品発表を続ける。
1954年	長崎県長崎市へ転居、高校時代まで同市で育つ。	1982年	色鉛筆画展(会場不明、東京)を開催。
1962年	高校在学中、「長崎県展」入選。	1983年	ドローイング展(ギャラリーポエム、東京)を開催。
1963年	美術家を志して上京。桑沢デザイン研究所に入学。舞台美術家・画家の朝倉撰に学ぶ。	1988年	銅版画個展(ギャラリーポエム、東京)『渡辺千尋銅版画集 象の風景』(用美社)出版。
1965年	桑沢デザイン研究所を卒業。朝倉の下での舞台照明・舞台美術の仕事を経て、サンドイッチマンなどのアルバイトを転々とし、やがてデザイン会社に就職。水彩・油彩・ペン画・鉛筆画など様々な手法による表現を探っていた。グッショ画個展(会場不明、東京)を開催。	1989年	大阪、長崎、東京で『象の風景』展を巡回開催。
1967年	エナメル画個展(椿近代画廊、東京)を開催。	1993年	『渡辺千尋 銅版画世界』出版。 『象の風景』シリーズがプラハ国立美術館収蔵となる。
1968年	「ポスターデモの会」を結成。この頃「反芸術」系のパフォーマー・前衛美術グループらとともに1970年大阪万博に反対する文化運動に関わる。	1994年	ノンフィクション著作『ざくろの空 嘉珍漢人形伝』で第1回蓮如賞受賞。
1969年	日本ビクターのレコード『実音 日大闘争の記録』のジャケットデザインを手掛ける。以後、同社の仕事を数多く手がける。	1995年	「トンチンカン人形 久保田馨の世界」を長崎市ほか全国各地で開催(~1999年)。開催のかたわらトンチンカン人形の収集を続ける。
1970年	面相筆による画集『叛吐』(私家版)出版。	1996年	長崎県南高来郡有家町(現・南島原市)の依頼で16世紀に制作された銅版画《セビリアの聖母》復刻。復刻にあたり、1597年に長崎で処刑された26聖人の殉教の道のりを追体験するため、同一の日程とコースによる徒歩の旅を敢行。
1971年	レコード『日本の放浪芸 小沢昭一が訪ねた道の芸・街の芸』のデザインを手掛ける。この仕事はデザイナーとしての渡辺の転機となり、以降小沢関係の仕事を数多く手掛ける。	2001年	《セビリアの聖母》復刻の軌跡を綴った『殉教(マルチル)の刻印』(小学館)で小学館ノンフィクション賞優秀賞受賞。
1972年	油絵とリキテックス画による個展を開催(椿近代画廊、東京)。	2007年	原爆爆心地問題に取り組んだ「グラウンド・ゼロ・ミュニメント」試案を発表。
1977年	演劇雑誌『アトロ』のために描かれたペン画と短文によるカット集『渡辺千尋掌画集』(レクランム舎)刊行。	2009年	8月18日食道癌のため逝去。享年64歳。

参考資料

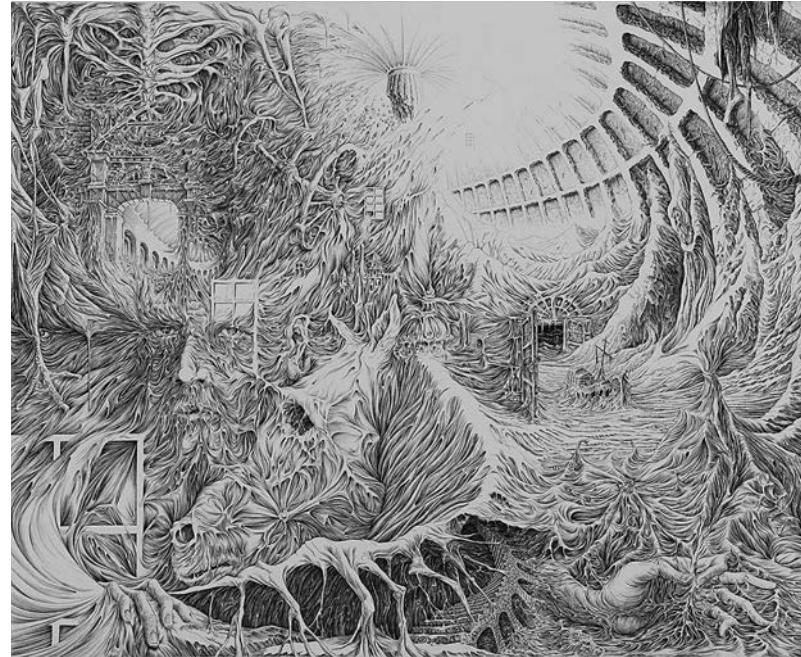
- 渡辺千尋『象の風景』(用美出版、1988年)
- 渡辺千尋『殉教(マルチル)の刻印』(小学館、2001年)
- 『渡辺千尋銅版画 カタログレゾネ』(渡辺千尋遺作管理会、2010年)
- 『渡辺千尋の仕事』(執筆・編 長崎県美術館、2014年)

渡辺千尋

Watanabe Chihiro

会期 2020年1月17日(金)-4月19日(日)

会場 近現代美術室B



渡辺千尋《風の遺跡》1979年

版画家・デザイナー・文筆家の渡辺千尋(1944-2009)による銅版画作品を紹介します。

1965年に桑沢デザイン研究所を卒業した渡辺は、当初デザイナーとしてキャリアを重ね、レコードジャケットや書籍の装丁、雑誌の挿画制作を精力的に行いました。1960年代末、反芸術のムーブメントやアンダーカルチャーの渦中に、時代の空気を凝縮した過剰で奇抜なデザインワークを発表しています。

1978年、渡辺は挿画を主にした高校時代の先輩に勧められ、エングレーヴィングを始めます。エングレーヴィングは、鉄の刃物(ピュラン)で銅板に線を彫り、版を作ると、紙幣の印刷方法として知られる銅版画技法です。一方にしか彫り進めることができず、「何年かかるかわからない」気の遠くなるような作業を要求するこの技法は渡辺にとって好ましく、自分が描こうとする世界の解像度に適した方法だったのでしょうか。渡辺はこれを独学で習得し、ますます饒舌に表現するようになってゆきました。

このたび展示する作品は1978年から90年代のものです。この時期、渡辺は生涯に手掛けた銅版画の約半数を完成させました。驚くべき細やかさと密度で表された線の集積は、見る者を捉えて離さず、高い技術のみならず魔術的な力まで感じさせます。そして、増殖する有機的な形態が作り出す風景は、文明の起源と終焉を同時に表しているかのようです。

福岡市美術館は、2015年度に渡辺千尋作品34点のご寄贈を受けました。本展では、22点の作品を展示します。

[学芸員 忠あゆみ]



〒810-0051
福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051(代表)
FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

作品リスト

※記載は、題名(日・英)、制作年、技法・材質(日・英)、画面寸法(縦×横cm)、当館分類番号である。すべて2015年度個人寄贈。

肉体と線

渡辺は、銅板にビュランを入れる瞬間を「刺青師の緊張」に例えている。一度線を刻めば決して戻りきれない緊迫感、刃物を滑らせる快感は、まるで柔らかな皮膚に刃物を入れるような感覚をもたらした。渡辺のこの感覚は作品に色濃く反映された。

いくつかの作品には直接的に肉体や皮膚のイメージを見て取れる。例えば《卵夢》(No.1)は、顔の表面の筋繊維がほどけてできた無数の線の束が四方に広がり、顔の周りを取り囲む。《背徳の垂心》(No.5)には、背中の傷が表されている。銅版画特有の硬質の線は表皮を剥がされた筋繊維やケロイドといった肉体の痕跡を克明に表すものとして用いられた。

同じ技法で肉感的な表現を行った作家にハンス・ベルメール(1902-1975)がいるが、渡辺は彼の銅版画集を見て「デッサン画以上の何の進展もしていない」と落胆したという。下絵の線描の軽やかさは、第三者が銅板に転写することで鈍くなってしまい、それが渡辺には認められなかった。渡辺がエンゲレーヴィングを通して目指していたのは、作家の皮膚感覚と結びついた、一回限りの生理的な動きを生かしながら線を引くことだった。

1 卵夢

Egg Dream
1978
エンゲレーヴィング、雁皮刷り・紙
engraving and chine colle on paper
27.5×20.3 1-E-1010

2 懲悔の夢景

The Dream of Repentance
1978
エンゲレーヴィング、雁皮刷り・紙
engraving and chine colle on paper
23.7×33.3 1-E-1002

3 峡谷の肖像

Portrait of Valley
1979
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
19.7×14.5 1-E-1013

4 二人ぼっち

Only Two Persons
1979
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
9.9×5.9 1-E-1028

5 背徳の垂心

Immorality Orthocenter
1986
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
22.3×25.2 1-E-1009

6 夢底器

The Dream Receptacle
1978
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
29.5×21.3 1-E-1008

線が紡ぐ風景

渡辺作品のイメージは、下絵をただ写し描きするのではなく、銅板の上を滑るビュランの動きに即して生まれた。毎日10時間以上、半地下にあるアトリエにこもって作業をしたという。「線が線を呼ぶ」働きに身を委ねた時間を重ねることで、生き生きとした線を生み出しができた。1920年代のシュルレアリストたちは催眠術や薬物などをを利用してドローイングなどを行い無意識下にある創造性を引き出そうとしたが、渡辺の場合は、ビュランを手にすることで自身の創造性を引き出すことができたのかもしれない。

引き出された創造性は何をもたらしたのか。見れば見るほど新たな細部が浮かび上がるような稠密な表現である。いくつかの作品は樹木、水、雲といった自然環境と似た構造を思わせ、また遺跡のイメージも見え隠れする(No.7, 8)。奇妙な小さなモチーフが分離結合を繰り返し、やがて大きな構造物を形成する様子は、粘菌や微生物の営みのようだ。

7 風の遺跡

Wind Ruins
1979
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
29.4×36.1 1-E-998

8 極私譚－風の棲処

Private Story - The Domain of Wind
1980
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
29.4×37.3 1-E-999

9 空の森

Sky Forest
1987
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
23.8×36 1-E-997

10 空の城

Sky Castle
1980
エッチング、エンゲレーヴィング・紙
etching and engraving on paper
10×6.6 1-E-1016

身近なモチーフから

渡辺の作品の多くは30cm四方以下の紙に刷られ、決して大きくないが、それでも閑わらず見る者を捉えて離さない。こ

れは、陰影も含めてすべての視覚情報を「1本の線」の単位に分解する銅版画の特色を最大限に活かしているためだろう。線の密度は否応なく見る者を引き寄せる魔力となっている。

どのようにして描くべき線を抽出していったのか。身近なモチーフを捉えた作品からはその一端を観察することができる。例えば草むらを描いた作品(No.14, 15)を見ると、対象の輪郭を確定させたのち、重なった部分を中心に密度を上げている。葛飾北斎の浮世絵版画と耳とを融合させた《北斎が聞こえる》では、耳の丸みを帯びた形を線と線で囲まれた小さな四角い面の集積へと捉えなおすという離れ業を行なっている。

11 石

Stone
1985
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
11.4×6.8 1-E-1019

12 乾いたケシの花

Dried Poppy Flower
1983
エッチング、エンゲレーヴィング・紙
etching and engraving on paper
12.4×7.8 1-E-1023

13 間の花

Dark Flower
1983
エッチング、エンゲレーヴィング・紙
etching and engraving on paper
9.5×7.6 1-E-1024

14 線の記憶

Memory of Line
1993
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
15.8×29.5 1-E-1003

15 線の繁み

Bush of String
1993
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
22.4×29.5 1-E-1001

16 北斎が聞こえる

I Hear Hokusai
1983
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
12.1×8.8 1-E-1025

17 崖景

Cliff
1996
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
25.7×14.7 1-E-1007

18 月光

Moonlight
1996
エンゲレーヴィング、雁皮刷り・紙
engraving and chine colle on paper
29.4×20.4 1-E-1006

象の風景

《象の風景》シリーズは1979年から1988年に散発的に制作された渡辺の代表作である。郊外の特定の場所を連想させる副題や、標識や電柱、建物などの郷愁を誘うモチーフが描かれているが、本作を特徴づけるのは、それを破綻させる背景の肉塊だ。脂肪の詰まった肉塊は膨張し、フレーム外にはみ出んばかりだ。そのいくつかは画面空間に描かれたモチーフに侵食して意味を奪い去ろうとしている。渡辺は本作について事細かに解説していないが、これはまぎれもなくカタストロフィーの表象である。

2007年、渡辺は長崎の原爆爆心地に設置するための逆ピラミッド型のモニュメントを構想した(実現せず)。コンセプトノートには、「ここを訪れた人は、この抉られた虚無空間の前で、何がここで起こったのか、想像をめぐらすだけでいい。想像力こそ人間に与えられた最大の特性であり、観智なのですから。」と記している。

様々な秩序が壊れた《象の風景》の絵画空間もまた、想像をめぐらすための場なのかもしれない。白昼夢のような光景からは文明社会への警鐘を聞くことができる。

19 象の風景－Mダム地区

Elephant - The M Dam
1979
エンゲレーヴィング、リフトグランドエッチング?、空押し・紙
engraving, lift-ground etching? and embossing on paper
20.6×29.3 1-E-1000

20 象の風景－N村地区

Elephant - The Village N
1979
エンゲレーヴィング、空押し・紙
engraving and embossing on paper
14.1×21.5 1-E-1004

21 象の風景－S町

Elephant - The S Town
1988
エンゲレーヴィング・紙
engraving on paper
18.2×12.2 1-E-1012

22 象の風景－境界

Elephant - Border
1988
エンゲレーヴィング、空押し・紙
engraving and embossing on paper
14.3×11 1-E-1015